

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 2136 号

Factors Affecting Respiratory Unit Nurses' Self-rated Ability to Care for Patients with Chronic Obstructive Pulmonary Disease

(呼吸器病棟に配属された看護師の慢性閉塞性肺疾患患者への看護介入能力の自己評価に影響を与える要因)

田中 朋子 (たなか ともこ)

博士 (医学)

論文内容の要旨

本研究は、看護師の属性や看護実践環境のうち、慢性呼吸器疾患患者への看護介入能力の自己評価に関連する要因を明らかにすることを目的とした。

特定機能病院およびその他の病院に勤務する合計 464 人の看護師を対象に自記式質問紙調査を実施した。無回答項目のあったケースを除外し、最終的に看護師 257 人 (55.4%) を分析対象とした。調査項目は、年代、看護経験年数、呼吸器系病棟での看護経験年数、最終学歴などの属性、看護実践環境の評価に関しては、国際的に信頼性妥当性が証明された尺度である The Practice Environment Scale of the Nursing Work Index (以下 PES-NWI) 日本語版を使用した。慢性呼吸器疾患患者への看護介入能力の自己評価には、「病気を理解している」、「患者を理解している」、「呼吸器リハビリテーションができる」、「患者や家族を援助できる」、「患者や家族の権利を守ることができる」、「他の医療従事者と協力できる」、および「役割モデルとなることができる」の 7 項目 (4 段階リッカート尺度) を用いた。属性 (年代、職位、教育背景、専門資格の有無など)、病院内のベッド数および PES-NWI のサブスケール (5 種類) のスコアを独立変数、看護介入能力の自己評価を二値化して従属変数として、t 検定またはフィッシャーの直接確率検定、およびロジスティック回帰分析 (変数増加法) を実施した。その結果、PES-NWI において「看護師と医師との良好な関係」のサブスケールスコアと「病気の理解」および「患者と家族の援助」を除いた看護介入能力の自己評価との間に有意な正の関連を認めた。また、専門資格の有無は、「患者や家族の権利を守ることができる」、「他の医療従事者と協力できる」を除いた看護介入能力の自己評価との間に有意な正の関連を認めた。さらに、人的資源の適切性は「他の医療従事者と協力する」および「役割モデルを示す」と有意な正の関連があり、呼吸器系病棟での経験年数は、「役割モデルを示す」と有意な正の関連があった。慢性疾患看護専門看護師などの専門資格をもつことや、医師とのより良い関係が、慢性呼吸器疾患における看護介入能力の自己評価を高めることが示唆された。